

県小中学教研会報

発行 石川県小中学校教育研究会
金沢市尾山町10番5号
石川県文教会館内
電話(076)262-4916

編集 石川県小中学校教育研究会
広報部

印刷 株式会社 山 越



第7回研究大会 郡市町教育研究会協議会（県地場産業振興センター）



石川県小中学校教育研究会

副会長 中島 照雄

毎年、十二月に北陸三県の中学校教育研究会の代表が集まり、それぞれの運営方法や活動内容について紹介をされるとともに、授業力向上や研修のあり方などについて意見交流を行っていきます。今年度は、本県で開催され、石川県小中学校教育研究会の代表として参加させていただきました。

富山県では、県下の教職員全員が参加する研究会を企画・運営したり、学力調査の作問や分析をしたりして授業力向上等を図っているというお話を聞くことができました。

福井県では、七ブロックに分けた集会和県下全体で会員の四分の一以上の教職員が参加し、十三分科会に分かれた研究会集会で研究実践発表を通して授業力向上等を図っているというお話を聞くことができました。

どちらの県の教育研究会においても、五十年以上の歴史があり、改善を図りながらよりよい研究となるよう工夫している様子を聞くことができ、大変参考になりました。

本県の小中学校教育研究会は、平成二十四年に設立された歴史の浅い教育研究会です。しかしながら、各郡市・団体では、長年にわたり、子供たちの学力向上や教員の授業力向上のために創意工夫しながら「授業研究」

を柱とした研究を進めてきました。そして、全国のどこにも負けない授業力を持った教員が育っていると自負しています。また、小・中・高等学校の接続を意識した公開研究会発表会を企画運営したり、多くの教員が参加しやすい環境づくりをするために各学校が教育課程を工夫したりするなどよりよい研究会となるよう改善が進められています。このように、本県の十六郡市教育研究会と二十四の教科等研究団体は、富山県や福井県の研究会に負けない歴史を持つとともに、地域性を活かした取組を構築したり、近隣地区と合同開催することで効率化を図ったりするなどそれぞれ創意工夫しながら発展してきています。本研究会はこれらの歴史と実績のある各郡市・団体を集結させ、一堂に会して教育研究会を開催する機会をつくるとともに、研究会のネットワークを県内全域に広げ、授業研究や情報交換等の教育研究活動を活発に行うことで、本県小中学校の教育の充実と児童生徒の学力向上に貢献していきたいと考えています。加えて、研究会が効果的・効率的に行うことができるよう今年度の成果と課題を明確にし、来年度に向けて改善を図っていくことも大切にしていきたいと考えております。

《研究会紹介》

能美市学校教育研究会

本研究会は、教科等研究会、小中連携等の事業を通して、教科の専門性や教師としての資質を高めることで、能美市の児童生徒の学力向上及び健やかな心身の育成に寄与することを目的として活動しています。

小学校八校・中学校三校、会員二九四名で構成され、教科等研究会一五部会、三中学校区ごとの小中連携研究会の他、専門部会として図書館・視聴覚・給食・小学校体育・道徳・特別活動の六部会でも活動を推進しています。

年度当初の全体研修会で、能美市全体の教育の重点について共有し、今年度の研修をスタートさせました。

教科等研究会では、基本的に年間四回の研修会を行い、指導案検討や研究授業を通して授業力の向上を図るほか、各部会の

テーマや課題をもとに講師を招聘して学習会

を開いたり、施設等の見学やフイー



ルドワークを通して実践力を高めるよう取り組んでいます。また、これまでの指導案等の資料も市全体の共有フォルダにデータで保存し、能美市の教職員の財産となっています。

各地区の小中連携研究会では、義務教育九年間の子どもたちの学びの連続性の保障や地区の子どもに共通する学習及び生活等に関する課題の解決を目指した取組を進めています。それぞれの校区で、主任連絡会を開催し、共通実践を進めたり、授業を参観し合い、ともに協議を行ったりしています。また、評議員会校長研修会)で交流することにより、各地区の取組の改善・充実を図る参考としています。

本研究会では、教員間の切磋琢磨の場を広げ、研修意欲を喚起するために、自主的研修活動として、学年研究会や奨励研究制度を創設し、研修機会の充実に取り組んできました。しかし、教員の働き方改革の問題や、現場での教員の学びをより充実させることの重要性を考え、取組の見直しと更新を図る中で、学年研究会を取りやめ、奨励研究も次年度から募集しないことを決めています。

しかし、他校の教員と学び合う学教研の場が貴重な機会であることは変わりません。回数や時間は精選したうえで、現場の悩みや課題を持ち寄り、ベテラ

ンと若手が学び合う、現場では得られない充実した場としていく必要があると考えています。一回一回の研修会が単なる前例踏襲でなく、教員の求める学びにつながる真摯な研修の場となるよう、各研究会の工夫・改善を進めていきます。

(文責 能美市立宮竹小学校 山口 雅子)

能美郡川北町学校教育研究会

能美郡川北町学校教育研究会は、川北中学校、川北小学校、橘小学校、中島小学校の四校の教職員六十七名で構成され、町からの助成金を受け運営されています。

本会では、小中連携を基軸として「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の育成を研究テーマとし、町内教職員の資質向上と、児童生徒の学力向上を含む健全な成長を目的として活動しています。一中学校三小学校という小規模のメリットを活かし、義務教育九年間の成長を見据えての継続した指導を行うために、小小および小中、さらに教育委員会との連携を密に取りながら研修を進めています。

全体会は年間三回行われ、教職員の資質能力向上と教育の振興をねらいとしています。一回目には講演会と研究会組織会を行います。二回目は、例年、

教育委員会との合同開催で、大型講師を招いての講演会を行っています。



今年度は、

の杉田浩教授をお迎えし、「子どもがよりよく育つ学級・学校づくり」と題したご講演から、特別活動を中核に据えた新学習指導要領のめざす授業について学ぶことができました。また、昨年度から県指定を受けている英語教育強化拠点地域事業において、「小中でつながる英語教育」をテーマに掲げ、英語研究会や英語専科教員が中心となって研究を推進し、四校が足並みを揃えた取組を発信することができました。

部会は教育課程、生徒指導、道徳教育、小中連携の四つがあります。各校教務・研究主任、生徒指導主事、道徳教育推進教師、教頭が集まり、四校が共通した実践や発達段階に応じた取組が行えるよう協議しています。研究会は国語、算数・数学、理科、社会、体育、英語、特別支援教育の七つがあり、「かわきた授業スタイル」を四校が共有し、学力向上に繋がる授業作りに努めています。年間三回の

研修を行い、教材研究や指導主事を招聘しての研究授業や研究協議を行っています。小中合同開催は、学習内容の系統性についての理解を深めたり、指導法の共有を図ったりする上でとても学びが多く、会員の授業力向上に繋がっています。

その他に専門部として、特別活動、特別支援コーディネーター、体育、養護教諭、給食の六つの協議会があります。一例を挙げると、体育研究協議会では、三小学校五・六年生全員が参加する水泳記録会や体育交歓会(器械運動)を行っています。指導の共通性や同学年児童の一体感を生み、より質の高い教育に繋がっています。

今後も町内の学校教育の振興発展のために研究活動を充実させていきたいと考えています。(文責 川北町立川北小学校 林 貴子)

石川県理科教育研究会

本研究協議会は、昭和三十一年に設立され、研究活動の歴史も五十年を超えるに至っています。本年も「小・中・高をつなぐ理科教育のあり方」を研究主題とし、日々の教育活動の充実、研究活動の進展をめざし取組を進めています。

令和元年度の第五十六回大会は、十月十六日(水)にかほく市を主会場に開催いたしました。

今回は、研究(大会)主題に基づき、副題を「主体的・対話的に関わり合い、深い学びにつなげる理科教育」としました。これらの主題、副題に基づいた公開授業を、石川県立津幡高等学校での三本の授業を皮切りに、かほく市立宇ノ気小学校で六本、かほく市立宇ノ気中学校で三本の順で午前中に行いました。また午後は、同中学校において、分科会、全体会、並びに記念講演を行いました。

小学校の授業では、どの子ども課題意識を持って、進んで授業に参加しようとする主体性が見られました。実験から考察する場面では、友達の見聞を聞いて「あーそうか」という声がたくさん聞こえ、友達の見聞により、自分の考えを深めるなど、対話的に関わり合いのある場面も多く見られました。中学校では、教師が生徒の疑問をうまく取り入れるなど、生徒の思考に沿った授業が展開されていました。また、夢中になって観察する姿が見られるなど、生徒の主体性を引き出すための授業の工夫も随所に見られました。更に高等学校では、よく練ら



れた発問や授業展開、更にはICTの積極的な活用による授業づくりが行われ、講義型の授業からの脱却に向けた工夫が見られました。

また、分科会では、「深い学び」を追究する主体的・対話的な学習について、小中高それぞれから四名ずつ計十二名の先生方が、実践を基にした大変興味深い提案をしてくださりました。

更に、記念講演では、石川県立大学名誉教授の上田哲行氏をお招きし、「子どもたちが自然の扉を開くとき 私たちにできること」と題してご講演を頂きました。

「アキアカネは単なる虫じゃなく、ひとつの風景である」とおっしゃる上田先生のお話で、理科教育が人間教育や感性の醸成に深く関わっていることに気づかされました。

今後、先生方の理科授業力の更なる向上、そして本県理科教育の益々の発展に尽力していかなくはないと考えています。

(文責 金沢市立森本小学校)

釣本 直行

石川県学校図書館協議会

本研究会は、石川県下の各小・中・高から会員を募り、構成しています。県の研究テーマを「未来をみつめ、豊かな学びを創造する学校図書館」として

歩んでいきます。

年三回の県・理事研修会

(各郡市代表校長)、年二回の小中



研究員会(各郡市研究員)、事務担当者会を開催している他、読書感想文・感想画コンクールの募集、審査等にも関わっています。優れた作品は全国審査へ提出しています。

また、毎年、県の研究大会を開催し、今年度は珠洲市立宝立小中学校で開催しました。

まず小中学校の各クラスでは公開授業、全体会で押上武文氏による「児童生徒の学びを支援する学校図書館を目指す」の記念講演がありました。

そして最後に「①利用指導」「②読書指導」「③図書館運営」の校種別9分会を開催しました。珠洲市立宝立小学校の子ども達は、学校図書館を有効活用することはもちろん、お互いが考えを対話し合い新たな学びを創造していました。純朴で相手の立場に立って学び合う姿は感銘を受けるばかりでした。「教育の原点ここにあり」とさえ思う時間となりました。

また分科会では石川県下各地の教育実践をもとにした発表、意見交換があり司書教諭のみならず学校司書の方々の参加も多数あり、意見交換は白熱しました。各分科会とも深まりある今後の道筋を示す学習となりました。そして地元出身「押上武文」氏の講演は心に染みるもので、1教育指導の基盤に学校図書館利活用を

2健全な教養を育成する読書センター機能を

3教育課程に寄与する学習・情報センター機能を

4学校図書館環境整備と経営・運営を

と、図書館教育の持つ意義と重要さを改めて認識させられた大変に含蓄ある講演でした。

本大会は、珠洲市の学校が一丸となって取り組まれたものであり、子ども達の純粋で美しい瞳と豊かに対話し合う姿を拝見し、学校図書館教育の持つ大切さを実感するばかりでした。

このような大切な教育活動を担ってきている県学校図書館協議会です。しかし、各大会、読書感想審査等の運営は、会員の自発的なボランティア活動で成り立っているのが現状です。各業務は業後や休日に手弁当で携わっているところです。働き方改革が言われて久しいのですが、そのあたりを改善していくことが急務と考えています。

(文責 金沢市立明成小学校) 端 博史

令和元年度役員

会長 長林 良彦(金沢・十一屋小)

副会長 中島 照雄(金沢・緑中)

北嶋 邦英(羽咋・西北台小)

布村 一雄(金沢・泉中)

総務部長 辻 和久(金沢・押野小)

研究部長 佐々木伸治(金沢・森本中)

研究副部長 荒巻 幸子(鹿島・鹿島小)

調整部長 橘 伸一(小松・今江小)

調整副部長 村中 和彦(鳳珠・向洋小)

広報部長 小林 幸雄(金沢・長坂台小)

広報副部長 神田 恵子(小松・東陵小)

会計部長 作田 有子(野々市・館野小)

会計副部長 山口 雅子(能美・宮竹小)

会計監査 羽岡 清美(金沢・城南中)

令和元年度会務報告

三役会

四月六日(七) 第一回理事研修会

四月十二日(金) 第一回幹事研修会

五月十日(金) 第二回理事研修会

五月二十八日(火) 第二回理事研修会

六月五日(水) 第一回代議員研修会

六月十四日(金) 第二回理事研修会

七月二十四日(水) 第三回理事研修会

七月二十四日(水) 第三回幹事研修会

八月九日(金) 小中学校教育研究会第七回研究大会

九月十九日(水) 第四回理事研修会

十二月十日(火) 北陸三県中教研連絡協議会

十二月二十六日(水) 第五回理事研修会

二月五日(水) 第二回代議員研修会

二月十三日(水) 第六回理事研修会

令和二年度県内開催予定の研究発表会

県大会

- ◆県国語教育研究会
 - ・内灘町立大根布小学校
 - ・十月二十三日(金)
 - ・かほく市立河北台中学校
 - ・十月十四日(水)
 - ・石川国語の会
 - ◆石川国語の会
 - ・金沢市立諸江町小学校
 - ・十二月五日(土)(予定)
 - ◆県書写教育研究会
 - ・中能登地区
 - ・十一月初旬
 - ◆県社会科教育研究会
 - ・輪島市
 - ・十月二十三日(金)(予定)
 - ◆県小学校社会科教育研究会
 - ・金沢市
 - ・十二月上旬
 - ◆県算数教育研究会
 - ・白山市立朝日小学校
 - ・十月二十三日(金)
 - ◆県中学校数学教育研究会
 - ・開催予定なし
 - ◆県理科教育研究協議会
 - ・石川県立寺井高等学校
 - ・能美市立寺井中学校
 - ・能美市立粟生小学校
 - ・十月十六日(金)
 - ◆県音楽教育研究会
 - ・小松市
 - ・十一月二十日(金)
 - ◆県図工・美術教育研究会
 - ・野々市市
- ◆七尾市立山王小学校
- ・七尾市立七尾東部中学校
- ・七尾市矢田郷地区コミュニティーセンター
- ・十一月二十日(金)
- ◆県学校体育研究会
 - ・加賀市
 - ・十一月中旬
 - ◆県小学校体育研究会
 - ・金沢市
 - ・十二月下旬
 - ◆県小学校家庭科教育研究会
 - ・金沢市
 - ・開催日未定
 - ◆県小学校技術・家庭科研究会
 - ・内灘町立内灘中学校
 - ・未定
 - ◆県中学校英語教育研究会
 - ・石川県地場産業振興センター
 - ・八月三日(月)
 - ◆県道徳教育研究会
 - ・金沢地区(金沢市、河北郡)
 - ・小松地区(能美市郡)
 - ・中能登地区(羽咋郡)
 - ・奥能登地区(輪島市)
 - ・開催日未定
 - ◆県小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
 - ・能登町立小木小学校
 - ・九月二十五日(金)
 - ◆県特別活動教育研究会
 - ・野々市市

- ・開催日未定
- ◆県小中学校視聴覚教育研究協議会
 - ・金沢市
 - ・十一月二十日(金)
- ◆県学校図書協議会
 - ・羽咋市立瑞穂小学校
 - ・国立能登青少年交流の家
 - ・十月二十日(火)
- ◆特別支援教育研究会
 - ・石川県地場産業振興センター
 - ・十一月二十七日(金)
- ◆県養護教育研究会
 - ・石川県地場産業振興センター
 - ・七月二十九日(水)・三十日(木)
- ◆県公立小中学校教育事務研究会
 - ・中能登町ラピア鹿島
 - ・八月二十五日(火)・二十六日(水)

※会場・期日は現時点の予定です。変更になることもありま
すので、ご了承ください。

石川県小中学校教育研究大会 第8回研究大会

- 期日 2020年8月7日(金)
- 会場 県地場産業振興センター
- 日程と内容
 - ・郡市町教育研究協議会
各郡市町教育研究会代表による今年度の活動方針の協議、情報交換等
 - ・開会式
 - ・記念講演 講師 鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授 久我 直人 氏
演題 「未定」
 - ・分科会
 - ①河北郡教育課程研究会中学校国語科部会
言葉の力を高め合う授業の工夫
 - ②石川県図工・美術教育研究会
一人一人が輝く造形活動 ～造形的な見方・考え方を働かせて～
 - ③県学校体育研究会
豊かな心とすこやかな身体を育てる学校体育を求めて
 - ④県小学校体育研究会
運動のおもしろさを中心に据えた投の運動(遊び)
 - ⑤県小学校家庭科教育研究会
豊かな生活を創り出すすそめざして ～つながろう家庭・地域、高めよう実践力～
 - ⑥県中学校技術・家庭科研究会
生活を創り出す実践力を身に付けた生徒の育成
－思考が広がり、深まる指導を通して－
 - ⑦県中学校英語教育研究会
年間目標から授業とスピーキングテストの評価までをつなぐ英語科での実践
－生徒間のやり取りにおけるスピーキングテストに焦点を当て－
 - ⑧県学校道徳教育研究会
共によりよく生きようとする児童・生徒の育成を目指して

編集後記

本号では、各郡市町の教育研究会や各教科等研究会の活動状況や取組の様子を四つの団体から報告していただきました。どの研究団体も、本研究会が設立以来掲げてまいりましたテーマ「石川の授業研究文化の継承と発展」に真摯に取り組んでいることがうかがえる内容です。ぜひ他の研究団体も参考にしていただきたいと思います。

さて、各学校現場では、若手教職員育成プログラムの取組が進んでいると思います。大量退職や教職希望者減少の波の中、教師の力量を高めていくことは喫緊の課題となっています。私たち教職員は、研究と修養に励むことが使命です。そのためにも各研究団体の質の向上と、会員の皆様の指導力向上が今更以上になくなっていくと思
います。

最後に、第十六号発刊にあたり、たくさんの方のご協力やご支援をいただき、誠にありがとうございました。

(広報部 小林 幸雄)

広報部

- 部長 小林 幸雄(金沢・長坂台小)
- 副部長 神田 恵子(小松・東陵小)
- 川尻 浩史(金沢・医王山中)
- 大家 慎二(河北・外日角小)
- 直江 賢一(白山・北星中)
- 寺西 千洋(河北・津幡南中)